Roberto Cavalli, ensemble, embroidered denim, spring 2003, Italy, gift of Roberto Cavalli. Photograph courtesy of The Museum at FIT

DENIM: FASHION'S FRONTIER

Nia Groce

NYのFIT美術館で開催中の『**Denim: Fashion's Frontier**』は、19世紀のファッション革命から現在に至るデニムの歴史をひも解きながら、その重要性に焦点を当てた展覧会だ。ワークウェアやオートクチュールを含む70点超の芸術品が、視覚的な旅の世界へと鑑賞者を誘う。

デニムの重要性に影響を与えた鍵となる時期を年代順に追いながら、ワークウェアなどの"慎ましやか"なものから、90年代におけるラグジュアリーのシンボルとしての台頭、さらには現代のデザイナーによる活用例までを展示。例えば**リーバイス**は歴史上、綿を基本にした素材使いを実現した重要なブランドであり、展示されている501のジーンズは、言うまでもなく5ポケットのジーンズの原型だ。

20世紀のセクションへと歩みを進めると、さらに用途が拡大された1900年代中期のアイテムを見ることができる。たとえば、"ウエスタンウェア"や"プレイウェア"などの、過去の2つの大戦中に登場したライフスタイルカテゴリーが含まれる。第二次大戦後のセクションでは、引き続きデニムの進化を分析。1970年代の"バイカーギャング"の反抗的なスタイル、1980年代の**カルバン・クライン**の"デザイナー・ジーンズ"、ヨーロッパのブランド、**フィオルッチ**の"セーフティー・ジーンズ"のような、ラグジュアリーなアイテムとして変化していったジーンズの歴史を検証する。

1990年代になると、ヒップホップカルチャーの定番アイテムとして、多面的な製造法によるジーンズが躍進した。例を挙げれば、**トミー ヒルフィガー**や**Claude Sabbah**（クロード・サッバーフ）らのデザインが、この時代を表現している。最後の展示エリアでは、**ジュンヤワタナベ**によるデニムのイブニングドレスや、エコブランド**EDUN**の作品などを通して、現在のモダン／ポストモダン・デニムの非構築的なスタイルの解釈にスポットを当てている。この展覧会は総合的に見て、デニムの成熟ぶりを時系列で見ることができるだけでなく、各時代においてデニムを形成した歴史的な事件や文化的な活動にも焦点を当てた、充実の内容に仕上がっている。

『Denim: Fashion's Frontier』展
会期：2015年12月1日〜2016年5月7日
会場：ニューヨーク州立FIT美術館
www.fitnyc.edu